

2019年度AO選抜 総合心理学部
「総合心理学部課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

| 学科・学域・専攻 | 志願者数 | 一次合格者数 | 最終合格者数 |
|----------|------|--------|--------|
| 総合心理学科 | 113 | 55 | 14 |

この試験では、本学部アドミッション・ポリシーのうち、特に人間の心と行動、現代における人間の在り方に関する基礎的な問題関心を有していることを学生に求めています。心理学を学ぶ意欲と問題意識が極めて高く、設定された課題に対する理解力と表現力に優れ、かつ独創的な発想力を持つみなさんの出願を期待しています。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

第一次選考のエントリーシートでは、志望理由、入学後に学びたい分野やテーマについて、卒業後の進路(就職や大学院進学)についての希望の3点について記述を求めました。

小論文では、心理学に関連するテーマを自身で設定し、自由に論述することとしました。テーマは学術的に高度なものを含む必要はなく、現時点での知識や関心に即し、あるいは入学後に勉強したいと思う内容を中心に論述するものとしました。

(2) 第二次選考

第一次選考合格者に対して、90分の課題論文試験と約20分の個人面接試験を実施しました。課題論文は、1) 高等学校の学習を踏まえ、心理学に関する文章理解を問う問題、2) 同理解に基づいて、考える力およびそれを表現する力を総合的に試す問題、3) 研究データを示すグラフを読みとりその内容を説明する問題、4) 論文内の重要事項を身近な事例と関係づけて論じる問題を設定しました。個人面接では、二人の面接担当教員が、選考書類と課題論文に基づき特色ある活動と学びの実績、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいこと等について質問しました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、本学への志望動機や入学後に学びたい分野・テーマが明確になっているか、学習意欲・関心は高いか、卒業後の進路は明確か、将来について真剣に向き合っている様子が感じられるかを審査しました。

小論文では、論文としての構成、内容の論理性、説得性、独創性、また語句や漢字を正しく書いているかを審査しました。

(2) 第二次選考

まず課題論文では、読解力や文章構成力を身につけているか、またグラフの読み取りや理解ができるかを含めて科学的な思考ができるかについて審査しました。次に個人面接で

は、学部志望理由や学習意欲・学習目標等から計画力、心理学への興味関心、挑戦する気持ち、またそれらに対する質問への回答の的確さから応答力について審査しました。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

エントリーシートに記載されている志望理由や学びたい分野が、総合心理学部の教育目標や教育課程と合致するかどうかを評価しました。また、これまでの学業の達成度についても評価しました。

小論文については、興味深いテーマを追求しているか、文章の構成がよく考えられているか、語句の使用は適切かなどを評価しました。

(2) 第二次選考

課題論文では、文章や図、データなどを読み込み、科学的に考え、書く力を総合的に試すものとなっていました。設問1では、課題となった論文の「研究目的と背景」の要約を求め、正しく理解できているかということの評価をしました。設問2では、図1で示されたものを基に、友達つきあいのパターンを認識できているか、そのパターンの意味を文章と図から正確に読み取れているかを評価しました。設問3と設問4は、図2と図3で示された年代別の友達つきあいのパターンの変化を対象として、まず男女の共通点を把握できているか(設問3)、逆に男女の相違点を把握できているか(設問4)を確認しました。要するに、同じ図を対象として、多角的に読み取る能力を評価しました。設問5では、今回の結果をまとめ、それを基に自分の考えを論理的に展開できているかを評価しました。

個人面接では、志望動機や学習への意欲・関心について具体性を持って明確に答えられるか、人間の心と行動や現代における人間の在り方への興味関心、新しいことに取組んで関心を広げようとする意欲について、自らの言葉で考えを示すことができるかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

エントリーシートについては、多くの受験生が総合心理学部の教育内容を理解して記載していました。小論文については、一部の受験生は準備不足だったようです。構成にひと工夫を加えている、内容が充実している、あるいは、独自の視点から論じている論文の評価が高くなりました。

(2) 第二次選考

全体的傾向としては2点ほど、注目すべき点があったように思います。まず1点目は「友達とのつきあい方」という、身近な話題を対象とした課題論文だったからかもしれませんが、自分の考えが先行してしまっていた点です。あくまで、今回提示した文章と図を基に論述してほしかったのですが、その点を明確にしないまま(あるいは不十分なまま)、個人的経験を述べている人が散見されました。もう1点は時間配分の問題です。全体としては例年通り、一問400字程度で、計5問2,000字程度の記述を求める内容となっていました。ところが、設問5のあたりでは、明らかに時間切れとなっている人が多くいました。決め

られた時間内で、かつ決められた字数で自分の考えをまとめるトレーニングが必要だったかもしれません。

6. 次年度受験生へのアドバイス

これまで見てきたように、AO入試では、心理学を学ぶ意欲や問題意識が高いことはもちろん、設定された課題に対する理解力や分析力、表現力、独創性なども評価の対象としています。すなわち、課題を読みこなし自分の見解を論理的に表現するための国語・英語、データを分析的に読み解く力としての数学など、高校での基礎的な学習がAO入試対策としても役に立つということです。また、高校までの教育において心理学に関する知識を体系づけて学習する機会がほとんどないと思いますので、心理学とその関連領域について書籍を読んだり、新聞やニュースを通じて社会で起こる出来事について心理学の観点から考え、深く関心を持つことも受験対策のひとつとなります。

7. 進学指導上の留意点

第一次選考のエントリーシートで志望理由や卒業後の進路等について尋ねているように、AO入試では自分の大学での学びや将来について日ごろから真剣に考え、心理学を学ぶにあたっての明確な意思と高い関心を持った生徒を求めています。第一次選考の小論文では、自分の友人関係の悩みなど、個人的な経験だけを中心にしてまとめたものよりも、心理学について自分なりに考え、広い独創的な視野を持って書かれた論文が評価されます。また、第二次選考の設問も表面的に理解された知識ではなく、多面的なものの見方、科学的な考え方が問われます。そのような力は一朝一夕に養われるものではありませんので、先生方には早い時期からのご指導をお願いします。

またAO入試で入学する学生には、心理学を学ぶ意欲や問題意識が高いことはもちろん、基礎的な学力および少人数制クラスにおいて周囲の学生と協力できる力も求められていますので、高校生活では学業や課外活動への真摯な取り組みを指導していただきたいと思います。

以上